

『2024年度 春学期 学生による授業評価報告書』刊行にあたって

学長 神達 知純

2024年度春学期末に実施した学生による授業評価アンケートの集計結果がまとまりましたので、ここに報告書として刊行いたします。このたびの調査にご協力をいただいた学生の皆さん、授業担当教員の皆さん、担当の事務局職員の皆さんに感謝申し上げます。

本報告書は、学生の視点から授業を多角的に捉え、大学教育のさらなる向上を目指すためのものであり、授業改善や学習環境の充実に向けて重要な指針を示しています。本報告書を活用することで、授業担当教員はふりかえりの機会をもつこととなり、学生の意見を参考にし、授業の改善に努めることとなるでしょう。

また、このような取り組みを定期的におこない、その結果を公表することは、大学の内部質保証として不可欠です。いま、大学の教学運営にいかん学生の声を活かしていくかということが重要なテーマになっており、認証評価機関のひとつである大学基準協会は、大学の内部質保証、教育課程の点検・評価・改善に学生の参画を求めています。教育の質の向上は、まさに教員・職員・学生が一体となって取り組むべき課題です。本報告書はその意味でも貴重な資料となるはずで

きて、「学生による授業評価アンケート結果分析報告」にもとづいて、今後の本学における授業改善の方向性について述べます。

現行の授業評価アンケートは質問内容から「教員による授業の取り組み」(Q1~6)、「学生による取り組みと成果」(Q7~9)、「授業に対する満足度(学びの成果)」(Q10~12)、「出席率と学修時間」(Q13・14)に分けられます。

分析によれば、「教員による授業の取り組み」は昨年度に比べて有意に上回る結果が得られていて、多くの授業で改善が進んでいるようです。ただし改善が急がれる授業も一定数残っていることがわかります。各学科(専門科目)、学修支援センター(第I類科目)などでは、当該科目の存在を確認し、授業担当教員に聞き取りをし、必要であれば改善を求めていただくことを望みます。

また、「学生による取り組みと成果」「授業に対する満足度(学びの成果)」には全学的に取り組むべき課題があるようです。Q11「興味関心の向上」はとくに第I類科目において厳しい結果が報告されました。共通科目の場合、学生たちにその授業を受講する意味、学びと学びのつながりを丁寧に伝える必要があることがわかります。

未来の社会を見すえて、わが国の高等教育では自律的な学修者を育成することが求められています。本学でも自律的な学修者の育成をテーマにしたFD活動をおこなってきました。授業担当の教員の皆さんにおかれましては、学生が何をどのように学ぶかという視点に立った授業を実施していただくことを改めてお願いいたします。

今後とも、大正大学の教育のさらなる向上のために、ご理解とご協力をどうぞよろしくお願い申し上げます。